

一般的には五十肩などと呼ばれる事がありますが、総称して肩関節周囲炎と診断名がついています。骨性の安定ではなく、筋肉に依存して安定を作る肩関節は大変繊細で特に関節周囲の炎症から非常に運動が困難になってしまう、もしくは制限が生じてしまうといった事が頻発します。



## 肩関節周囲炎の一般的な治療

肩関節周囲炎 (五十肩・四十肩) は、一般的には加齢、過労による肩関節構成体の変性を基盤にして発症すると考えられています。

レントゲンで肩関節の状態を調べ、物理療法や運動療法などのリハビリテーションや神経ブロック注射などが行われます。

### 例1) 肩関節石灰沈着腱炎

検査：レントゲンにて石灰を確認

治療 ⇒ ステロイド注射

### 例2) 腱板断裂⇒運動評価 (Drop arm sign陽性)

検査：MRIにて診断

治療 ⇒ 鏡視下腱板修復術

### その他) 肩峰下滑液炎、上腕二頭筋長頭腱炎など

治療 ⇒ 物理療法など

## 遠絡統合医学による肩関節痛 (五十肩・四十肩) の治療

肩関節に出ている痛みや運動障害 (可動域制限) は、肩関節そのものに原因がある局所性のものと、脳や脊髄といった中枢神経系に原因があるものがあります。

単純に、肩関節の炎症としてだけで診断されているケースが多いですが、肩関節の不調には複数の中枢神経系の原因が関与しています。中枢神経系へのアプローチで改善する症状を多数確認してきています。

### 各原因部位と症状の特徴

#### 症状1) 急に腕が上がらない

片側の肩の上から後ろにかけて、全体的に痛むと同時に肩関節から肘背から手背の痛み (麻痺)  
同じ側の足に力がいりにくい (スリッパが履きにくい：下垂足)

原因部位：脳レベル

急性期⇒ 脳レベルの改善が主体 (2~3カ月は症状の改善が不安定)

慢性期⇒ 肩周囲とも積極的にアプローチする (2ヶ月以降)

#### 症状2) 肩の後側の痛み (三焦経の痛み)

反対側の肩を触るのが困難 (水平内転運動障害)

原因部位：頸椎レベルの中枢神経系

症状3) 肩の前側の痛み (肺経の痛み)

背中に手をまわすことができない (後方伸展運動障害)

原因部位: 腰椎レベル(L3.4)

症状4) 肩の上側の痛み (肺経・大腸経の痛み)

腕を上にあげることができない (上肢の屈曲挙上運動障害)

原因部位: 腰椎レベル(L4.5)

中枢神経系の機能を再建する事は、肩関節痛を根本的に良くすることにつながります。

肩の痛みと関係する中枢神経の高さ

大脳レベル ⇒ 急な激痛と運動障害

延髄レベル ⇒ 両方の肩が痛い

L3.4レベル ⇒ 肩関節の前面

L4.5レベル ⇒ 肩関節の上外側面

遠絡統合医学では、神経機能の障害を神経細胞と神経線維に分けて分析しています。

痛み症状は神経線維の障害になります。神経線維の障害が修復されるためには、血液やリンパ液、電解質が十分に循環する必要があります。遠絡統合医学では、神経系の伝達も含め、血液やリンパ液、電解質などの流れを総称してライフフローと呼んでいます。スムーズなライフフローが十分に確保されている事は自己の修復力、治癒力に直結します。遠絡統合療法の目的はライフフローを調整する事にあります。つまり、身体の自己治癒力を再建させる事になります。「長く患っている」「症状が変化しない」という状態の根本に対してのアプローチができます。

#### 症例 1

#### 20代 女性

追突事故後、右側の首～肩にかけての痛みが発症。肩の痛みにより腕を上げることが困難。発症から1カ月物理療法を受けていたが改善がみられなかった。初診時前方へを上げるも70°程度しか上がらない状況でした。

初回から頸椎レベルを中心に治療したところ、初回から肩痛の改善が確認できました。前方へ腕を上げる事も120°程度まで可能となりました。

2回目は、中枢神経系と腕の治療を行ったところ自力でほぼ全可動域の運動が可能になりました。

#### 症例 2

#### 20代 男性

テニス歴6年の男性が、練習量が増えたことに伴い、肘の痛みが強くなり整形外科を受診するも症状が悪化し、肩を上げる事も困難になり来院されました。

来院するまでに、薬の内服、リハビリテーションを行ってきていました。初回から遠絡統合療法で腰椎レベルの治療を行いました。

治療直後から、肩と肘の痛みは軽減(10⇒3)しました。肩の動きも改善しほぼ全可動域まで可能になりました。

### 症例3

### 40代 女性

転倒により右上腕骨を骨折し、1カ月の固定安静期間を経てリハビリを開始されました。しかし、肩に強い痛みを訴え動かすことが困難、ステロイドや麻酔の注射を行うも痛みが改善せず、凍結肩と診断されての来院でした。受傷より9カ月経過してからの来院でした。

初回の治療で、肩から腕にかけての痛みとしびれが、安静時にも出ていましたが、改善を確認できました。肩の動きも改善し、水平まで腕を持ち上げられなかったものが耳の高さまで上がるようになっていきます。

週1回の治療と自宅での自主運動にて1カ月で万歳ができる様に改善しています。

### 解 説

肩の痛みも複数の中枢神経系との関係で、複雑な病態を形成していますが、一つ一つ解決する事で確実な改善を見る事もあります。肩の原因が腰というのは一般的ではありませんが、ライフフローの観点からみると大変多い病態です。